

平成 26 年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の平成 24 年 8 月号（第 65 巻第 8 号）から平成 26 年 7 月号（第 67 巻第 7 号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は獣医学術学会年次大会（岡山）において発表された地区学会賞の中から、「獣医学術功労賞」は推薦のあった長年の功労の業績の中から、選考委員会において厳正に審査され、平成 26 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（岡山）における授与式において、本会蔵内会長から本賞（賞状）が、協賛会社（日本全薬工業㈱、共立製薬㈱、日本ハム㈱）から副賞（研究奨励金 20 万円（目録））がそれぞれ受賞者に授与された。

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり。

平成 26 年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

獣医学術奨励賞：

「タイストール牛舎で多発する傾蹄の CT 画像解析及び飼養管理調査」

大下克史（広島県農業共済組合連合会），他
 〈選考理由〉 タイストール牛群で発生の多い後肢外蹄の傾蹄については、これまでその病態や発生要因が明らかでなかったが本研究は、傾蹄の解剖学的特徴を CT 画像により解析するとともに、発生の環境的要因として、牛床のゴムマットの硬度が関与していることを明らかにした。このことは、牛の傾蹄の病態と発生要因の解明に大きく貢献し産業動物獣医学の進歩に著しく貢献するものであることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

獣医学術学会賞：

「競走馬の細菌性角膜炎に対するファージセラピーの検討」

岩野英知（酪農学園大学），他
 〈選考理由〉 バクテリオファージを用いた細菌感染症の治療法であるファージセラピーは、馬の緑膿菌由来角膜炎の治療に応用することが可能であることを、角膜炎モデルマウスを用いて明らかにしたものであり、将来的に細菌感染に対する新しい治療法の開発につながる可能性があることが高く評価されたことから、獣医学術学会賞を受賞するにふさわしい研究であり、推薦する。

獣医学術功労賞：

「牛の繁殖障害防除に関する研究」

加茂前秀夫（東京農工大学・名誉教授）
 〈選考理由〉 繁殖障害は牛の生産性を阻害する大きな要

因の一つであり、その原因の解明と診断、治療及び予防法の確立は、産業動物獣医療における重要な課題である。加茂前秀夫氏の長年にわたる牛繁殖障害に関する一連の研究の成果は、産業動物獣医学の振興に著しく寄与するとともに、繁殖障害の新しい診断・治療法の普及にも多大な貢献をもたらし、また、日本産業動物獣医学会会長として同学会の運営に貢献されたことは高く評価される。このため、同氏に対する獣医学術功労賞の授与はふさわしいと判断した。

【小動物部門】

獣医学術奨励賞：

「腎盂拡張の認められた猫に対する尿管ステント留置術の臨床的検討」

桑原康人（クワハラ動物病院・名古屋市），他
 〈選考理由〉 猫において比較的多くみられる尿管閉塞の治療には外科的介入が必要であり手術後の狭窄など困難な点も多いが、本論文では、尿管ステントの設置による尿管狭窄と腎盂拡張の改善の可能性を、経過を追いながら多くの症例で詳細に検討した点が高く評価できる。丁寧な記述と分かりやすい図解による情報提供も充分であり、獣医学術奨励賞として推薦する。

獣医学術学会賞：

「猫の β -ウレイドプロピオナーゼ欠損症：その臨床、分子基盤及び分子疫学」

清武典子（鹿児島大学），他
 〈選考理由〉 本研究は、動物で初めて先天性ピリミジン代謝異常症のうちの一つである β -ウレイドプロピオナーゼ (β UP) 欠損症を証明した新規発見であり、症例の示した食後嘔吐や活動性低下などの非定型的な

症状から様々な疾患を除外診断し、生化学的分析の結果からβUP活性の欠如を見出した。最終的に責任遺伝子であるUPB1の変異を証明し、その後3,000頭の猫集団における変異解析を実施しており、新規性と科学的手法による研究の展開性は高く評価されることから獣医学術学会賞にふさわしい研究であり、推薦する。

獣医学術功労賞：

「小動物における腫瘍の浸潤・転移機構に関する研究」

佐々木伸雄（東京大学・名誉教授）

〈選考理由〉 佐々木伸雄氏は、獣医界において長年にわたり教育・研究・臨床に尽力され、獣医麻酔外科学会による活動をはじめとして小動物獣医療分野をリードしてこられた。日本獣医師会においても、日本小動物獣医学会会長をはじめとして各種委員会の委員長等、重責を担ってこられたほか、農林水産省獣医事審議会の会長を長年務められたことから、獣医学術功労賞の授与にふさわしいと判断した。

【公衆衛生部門】

獣医学術奨励賞：

「冷凍保存した食品検体からのコレラ菌検査法の検討」

小野一晃（埼玉県衛生研究所）

〈選考理由〉 本論文は、冷凍保存された食品中のコレラ菌の動態を詳細に解析するとともに、分離が難しい冷凍した食品からのコレラ菌の分離手法を開発したが、特に、冷凍した食品検体からのコレラ菌の分離には、増菌培養と分離培地が重要であることを示し、繰り返し検査することの大切さを示した点が高く評価できる

ことから、本論文は獣医学術奨励賞に値するものであり、推薦する。

獣医学術学会賞：

「ジビエにおける人獣共通寄生虫感染実態調査」

上津ひろな（岐阜県食肉衛生検査所）、他

〈選考理由〉 本研究は、イノシシとシカの野生動物肉における人獣共通寄生虫の汚染状況を調査したものであり、検査地区は岐阜県の揖斐と郡上の2地区であるが、人獣共通寄生虫である住肉胞子虫、槍形吸虫、トキソプラズマ、肺吸虫、肝蛭、豚回虫、トキソカラと幅広く、抗体価の測定とともに一部では寄生虫の分離も実施している。今後、野生動物肉の消費が振興される上で、汚染実態と検査手法を提供したものと高く評価されることから、獣医学術学会賞を受賞するにふさわしい研究であり、推薦する。

獣医学術功労賞：

「エルシニア属菌の生態学的ならびに分類学的研究」

福島 博（島根県保健環境科学研究所・元保健科学部長）

〈選考理由〉 福島 博氏は、長年にわたり家畜及び野生動物におけるエルシニア属菌の生態学的研究と疫学的研究を行い、多くの学術論文を公表するとともに、世界のエルシニア属菌の研究をリードするなど人獣共通感染症分野や獣医公衆衛生学領域における学術的貢献は多大である。また、日本獣医公衆衛生学会地区評議員（幹事）として日本獣医公衆衛生学会の運営に貢献し、学会の活性化に寄与した。これらの功績は、獣医学術功労賞にふさわしいと判断した。



平成26年度 日本獣医師会獣医学術賞協賛各社

左から、小倉憲夫氏（日本全薬工業(株) 常務取締役）、藏内勇夫（(公社)日本獣医師会会長）、萩原 誠氏（共立製薬(株) 取締役）、森松文毅氏（日本ハム(株) 中央研究所 所長）



平成26年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者

左から、大下克史、岩野英知、加茂前秀夫、桑原康人、清武典子、佐々木伸雄、小野一晃（代理）、上津ひろな、福島 博の各氏